



2. 街を創る

●都市基盤整備の推進●

1. 交通・道路の整備 〈交通体系〉〈道路〉
2. 市街地の整備 〈市街地整備〉
3. 公園・緑地の整備 〈公園・緑地〉
4. 上・下水の整備 〈上水〉〈下水〉

3. 環境を守る^{びと}

●生活環境の整備●

1. 都市景観の形成 〈都市景観〉
2. 住宅の整備 〈住宅〉
3. 環境の保全 〈自然環境〉〈環境保全〉
〈廃棄物処理〉〈斎場・墓地〉
4. 安全の確保 〈交通安全〉〈防犯〉
〈消防・救急・防災〉
〈治山・治水〉



5. 活力を産む

●産業・経済の活性化●

1. 商工業の振興 〈商業・サービス業〉〈工業〉
2. 農林業の振興 〈農業〉〈林業〉
3. 観光・レクリエーションの振興
〈観光・レクリエーション〉
4. 勤労者対策の充実 〈勤労者〉

6. 人を育む

●生涯学習の振興●

1. 生涯学習の振興 〈生涯学習〉
2. 文化・スポーツの振興 〈市民文化〉
〈市民スポーツ〉
3. 青少年の育成 〈学校教育〉〈青少年〉



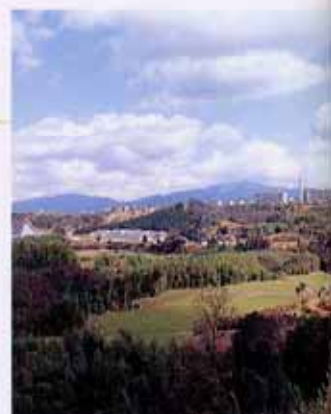
土地利用

●土地利用の基本方針

本市のめざす都市の将来像の実現に向け、地域の自然や社会的環境との共生をはかり、安全性を基本にすえながら計画的な土地利用をすすめ、多様な生活文化や新たな都市機能が育つ、活力ある都市をめざします。

市街化区域内での適正な土地利用の誘導をはかるとともに、市街地周辺においても新たな都市機能を計画的に配置します。

市域を「市街地ゾーン」、「環境共生ゾーン」、「山林保全ゾーン」の三つのゾーンに分け、全体として調和のとれた市域の保全と活用をはかります。



緑の空間に囲まれた丘陵部

〈ゾーン別土地利用方針〉市街地ゾーン

- 河内長野駅周辺から市役所周辺にかけての中心市街地では都市核の形成をめざすとともに、本市の「顔」にふさわしい都市機能の集積をはかります。
- 千代田駅・三田市町駅周辺では、都市核の形成をめざし、市民が豊かな生活を創造できる都市機能の集積をすすめます。
- 樹林地やため池・河川敷・生産緑地は、市街地の貴重な空間として保全・活用をすすめます。
- 景観や防災のための空間として「グリーンベルト」の保全・整備をはかります。
- 既存の住宅団地では、良好な住環境の維持をはかります。
- 宅地化する農地などでは、住環境や地域特性、景観などとの調和に配慮します。

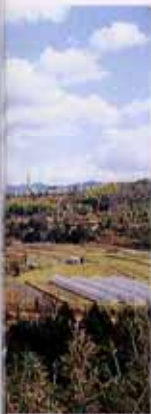


大阪外環状線周辺の市街地



「グリーンベルト」

本市特有の奥行きのある景観をかもしだしている丘陵や山地などの重なり合う斜面の緑の帯と、市街地の緑空間や水辺空間などをつなげた緑の帯が連続するもの。



〈ゾーン別土地利用方針〉 環境共生ゾーン

- 農地がまとまって存在する地域では、適切な基盤整備をはかり、都市近郊型農業の育成に努めます。
- 丘陵緑地は、市民の参加と協力により保全・活用をはかり、特に、市街地の背後に連なる緑地は、連続する緑空間の「グリーンベルト」として積極的に保全をすすめます。
- このゾーンのなかに位置づける複合機能として、本市の都市活力を高め、市民福祉の向上につながる都市機能を配置するものとし、地域の自然や社会的環境との共生をはかります。



岩湧野外活動広場

〈ゾーン別土地利用方針〉 山林保全ゾーン

- 山林保全ゾーンでは、森林の保全と育成に努め、林業生産・レクリエーションなどの場として活用をはかります。
- 点在する農地については、緑空間や生産の場などとして活用し、公益的機能の保全に努めます。

土地利用構想図

- 市街地ゾーン
- 環境共生ゾーン
- 山林保全ゾーン
- 都市核
- グリーンベルト
- 広域幹線道路
- 広域幹線道路(計画)



人口



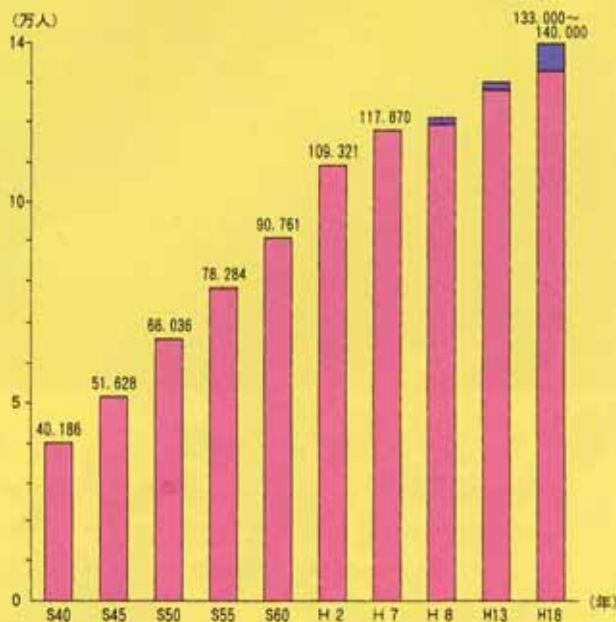
■将来人口

- 目標年次（平成17年度）における常住人口は、133,000人～140,000人と推計され、目標とする常住人口は、おおむね140,000人とします。
- さらに、将来的な目標とする常住人口は、おおむね150,000人とします。

バランスのとれた年齢構成の維持をはかるため、若者が住み続けられる住宅づくりや住環境の再整備などのまちづくりをすすめます。

環境との共生をはかりながら、複合的な都市機能を配置し、就労をはじめ多様な活動の場を創り出すとともに、昼間人口・交流人口を重視して、都市の活性化をはかります。

将来人口の推移



◇平成8年から推計値 各年3月末；昭和55年から外国人を含む

昼間人口

常住人口に流入人口と流出人口の差を加算したもの。

交流人口

都市がもつ固有の機能により吸引する人口。通勤・通学を含め、観光・レクリエーション、イベントなどで集まる人口。

ひら 時代を拓く

新たな時代潮流への対応

より心豊かな市民生活の構築の視点から、ライフスタイルの多様化をはじめ、長寿社会、高度情報化、国際化などの新たな時代潮流に、的確に対応したまちづくりに取り組みます。さらに、「河内長野らしさ」を市民・企業・行政の手で創り出し、共有することで文化の香り高い魅力あるまちづくりをめざすとともに、多様な機能を集積し自立性の高い都市への展開をはかります。



国際交流野外パーティ

1. ライフスタイルの多様化

- 学習や情報、レクリエーションなどの多様化する個人ニーズに対応できるプログラムやシステムの整備をすすめます。
- ボランティアやコミュニティ活動への支援など、地域生活を重視した施策をすすめます。
- 多様化するライフスタイルに応じてさまざまな選択ができ、市民が自ら参加できるような社会・行政面での新たな社会システムの構築をはかります。

2. 長寿社会

- 健康で生きがいをもって生活できる「人生80年時代」にふさわしい新しい社会システムの構築をはかります。
- すべての人の社会参加を促進し、自立生活や自己実現が果たせるようなハード、ソフト両面での総合的なまちづくりをすすめます。
- 思いやりに満ちた明るく豊かな長寿社会を支えていこうという意識をもった人づくりをすすめます。

3. 高度情報化

- 市民生活の利便性の向上や長寿社会に対応するため、新しい情報伝達手段の導入をはかり、地域情報のネットワーク化をすすめます。
- 情報教育の強化をはかります。
- 情報システムの構築をはかるとともに、総合的な地域情報化を推進する基盤整備に努めます。